

③コストの削減

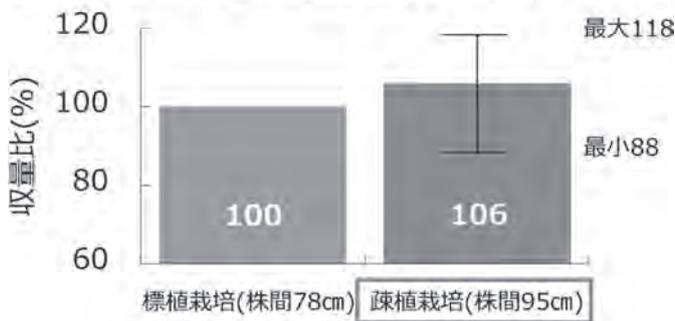


注) 標植栽培の収量は現地試験 7 例の整粒重の平均収量 189kg / 10 a を想定



脱穀を待つにお

④収量性の変動が大きい



注) 標植栽培の収量を100とした場合の値、エラーバーは最大と最小を示す(大規模実証試験 5 事例の平均)



脱穀作業

白花豆疎植栽培のポイント(北見地域)

播種期	栽植密度	標植に対する反応	留意点
目標	1,403株/10aまでの疎植	株あたり莢数が増加し	多肥栽培を避ける
5月25日	株間95cm×畦間75cmの場合	面積あたり莢数を確保	適期播種に努める

標植栽培 : 1,709株/10a (株間78cm×畦間75cmの場合)

3. 留意点

- (1) 本成績は北見地域の白花豆生産において疎植栽培を導入する際に活用してください。
- (2) 疎植栽培では適期播種に努め、地力の高い圃場での多肥栽培を避けましょう。

(成績名：北見地域の白花豆生産における疎植栽培導入による省力低コスト効果)

もう少し詳しい情報はこちら

検索は、「農業技術情報広場、一般課題 R 1」で



本技術内容についての問い合わせ先
道総研十勝農業試験場
電話 (0155) 62-2431
E-mail : tokachi-agri@hro.or.jp